

心の栄養剤No77 「おこだでませんように」

その子は小学校1年生なんですけど、いつも怒られています。家でも学校でも。たとえば、お母さんが仕事で帰りが遅い時、妹と遊んでやるんですけど、妹はわがママを言うんです。だから「うるさい、妹のくせに」って妹を怒るんです。そしたら妹は泣く。お母さんが帰ってきたら「また妹泣かして」と怒られます。そして「まだ宿題してないの？」って言われます。

その子は、妹と遊んでやっていたから宿題が出来なかったんですけどそういう言い訳をするとまた怒られると思っているので言いません。

学校でもよく怒られます。休み時間にマー君やター君とサッカーをしたいのに、仲間に入れてくれないんです。「どうして仲間に入れてくれへんのや」と聞くと「お前はルール知らんし、乱暴やからな」なんて言われます。それでその子は悔しいのでマー君とター君にパンチをして泣かせてしまうんです。

すると、先生がやって来てその子だけ怒られるんです。「暴力はいけません」って。

その子にとって仲間に入れてもらえないというのは「心が貰ったパンチ」なんですね。でも何か言い訳すると先生はもっと怒るに決まっているから彼は黙ってしまいます。

「あーあ、ぼくはいつも怒られてばかりや。昨日も怒られたし今日も怒られてる。きっと明日も怒られるんやろう。ほんまはぼく『ええ子やね』って言われたいんや。けれど、お母ちゃんも先生も僕を見るときはいつも怒った顔や」

7月7日、七夕さまに願い事を短冊に書くという授業がありました。マー君とター君は「サッカー選手になれますように」と書きました。トモちゃんは「ピアノが上手になれますように」と書きました。

その子は一生懸命願い事を考えています。そしたら「はよお書きなさい」とまた怒られたのです。そしてやっと覚えたひらがなで一つずつ心を込めて短冊を書きました。

「おこだでませんように」

書き終わったのはいつものように最後でした。「あーあ、また怒られる」そう思いながら先生に短冊を渡しました。先生はじっと短冊を見ました。

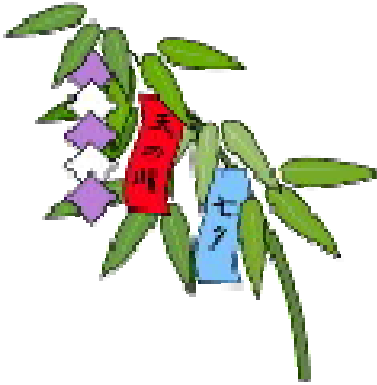


すると先生は涙を流してこう言ったのです。「先生、怒ってばかりやったんやね。ごめんね、よう書けたね。ほんまにええお願いやね」

先生が褒めてくれました。その日の夜、先生からお母さんに電話がありました。電話が終わるとお母さんは「ごめんね、お母ちゃんも怒ってばかりやったね」そう言いながらギューツと抱きしめてくれました。願い事が叶ったんですね。その子は思います

「七夕さまありがとう。ほんまにありがとう。お礼にぼく、もっともっとええ子になります」

--みやざき中央新聞より



いかがでしたか？

ある本に、人間は人に誉められたい！感謝されたい！ありがとうと言われたい！という性質を持っているが故に、文明が発達し現在に至ったと書いてありました。

「誉める」という字は「光の言」と書きます！！
つまり誉める言葉を人に与えると、その人が輝くという事でしょう！！
もちろん、その光の反射で誉めた方も輝きます！！

今月は「誉め誉め月間」と設定して、1ヶ月間どんな小さな事でも無理やりでも
誉めまくって、1ヶ月過ごしてみませんか？
きっと素晴らしい事が起こる気がします！！

※今、うちの店では、来年の旧暦の七夕（2012年8月24日）に富士山で
実施される「いのちのまつりプロジェクト」に向けて、お客様に専用のハン
カチに「夢」を書いていただいています！！

そのハンカチを赤い糸でつなぎ合わせ、富士山の頂上に飾った後、写真に撮り
宇宙ステーション「きぼう」に届けるという壮大なイベントです！

是非、参加されて皆さんの「夢」を富士山～宇宙に
届けてみませんか？
興味のある方は、店頭でお尋ね下さい！
専用のハンカチを準備しております！！
私が責任をもって届けます！！

